鑑賞の手引き

ライプツィヒへの旅　vol.1

Musikalische Reise nach Leipzig Band 1

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

Bach-Kantaten-Verein, Morioka

『ライプツィヒへの旅 vol.1 』　　2022 年 10 月 30 日（日）　岩手県公会堂大ホール

プログラム

Ⅰ．カンタータ第 71 番『神はいにしえより私の王』BWV71

1．合唱「神はいにしえより私の王」

2．テノール・アリア（ソプラノ・コラール付）「私はもう 80 歳」　Ten.西野真史

3．合唱「あなたの老年が青年のようであるように」

4．バス・アリオーソ「昼と夜はあなたのもの」　Bas.芳賀郁夫

5．アルト・アリア「強き力によって」　Alt.藤澤久子

6．合唱「あなたは敵に与えようとはしない」

7．合唱「この新しい統治が」　Sop.外崎麻子　Alt.佐々木温　Ten.吉岡拓輝　Bas.佐々木保雪

Ⅱ．カンタータ第 64 番『見なさい、どれほどの愛を父は示してきたか』BWV64

1．合唱「見なさい、どれほどの愛を父は示してきたか」

2．コラール「彼はそのこと全てをなさった」

3．アルト・レチタティーヴォ「俗世よ、去りなさい！ 自分のものだけを持って」　Alt.在原泉

4．コラール「私はこの世に何を求めるだろうか？」

5．ソプラノ・アリア「この世が自らに持っているものは」　Sop. 川嶋容子、山根日和

6．バス・レチタティーヴォ「私にとって天は確かにそこにある」　Alt.在原泉

7．アルト・アリア「俗世から私は何も求めない」　Alt.小川暁美、在原泉

8．コラール「おやすみ、おお形あるものよ」

Ⅲ．アンコール

1．モテット第 3 番『イエスは我が喜び』BWV227 より 第 7 曲コラール「退け、悲しみ嘆く霊よ」

2．カンタータ第 147 番『心と口と行いと生き方が』BWV147 より 第 10 曲コラール「イエスはいつも私の喜び」

指揮：佐々木正利

オルガン：剱持清之

ピアノ：菊池玲子

合唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

＊盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの今後の活動予定

◎『ライプツィヒへの旅 vol.2 』2023 年 2 月 or 3 月　会場未定　バッハ：カンタータ第 93 番、第 103 番

◎『3.11.祈りのコンサート vol.10 』2023 年 3 月 11 日　仙台電力ホール　モーツァルト：レクイエム（オシュトリーガ版）

◎『ライプツィヒへの旅 vol.3 』2023 年 6 月 or 7 月　会場未定　バッハ：カンタータ第 27 番、第 140 番

◎『ヴィンシャーマン追悼演奏会』2023 年 11 月 5 日　盛岡市民文化ホール　バッハ：カンタータ第 27 番、第 93 番、第 140 番

2023 年 11 月 3 日　東京第一生命ホール　曲目：同上

2023 年 11 月 4 日　仙台日立システムズホール（予定）　曲目：同上

◎『ライプツィヒへの旅 vol.4 』2024 年 2 月 or 3 月　バッハ：第 10 番、カンタータ第 177 番

◎『3.11.祈りのコンサート（独自で）』2024 年 3 月 11 日　会場未定　モーツァルト：レクイエム（オシュトリーガ版）

◎『ライプツィヒバッハ音楽祭』2024 年 6 月 8 日　ライプツィヒ大学教会　バッハ：カンタータ第 10 番、第 93 番、第 177 番

『ライプツィヒへの旅 vol.1 ～ プログラミングの経緯と覚え書き 』

プログラミング、その経緯 Programmierung, wie sie zustande kam

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン（以下フェラインと略）は、2020 年 5 月 6 日に岩手県民会館大ホールにてバッハの「マタイ受難曲」演奏会を、山響アマデウスコア（5 月 4 日：山形市民会館）と仙台宗教音楽合唱団（5 月 5 日：東北大学萩ホール）との合同で開く予定でしたが（オーケストラ：山形交響楽団）、新型コロナウィルス感染拡大のため中止を余儀なくされました。爾来 2 年半に亘って活動が制約されることとなり、会員数（フェラインでは団員と呼ばず会員と呼んでいる）も 3 分の 1 にまで激減、このままでは団の存続すら危ういという状況になってしまいました。しかし、バッハを、音楽を、合唱を愛する同志が、どんなに細々とでもいい、この火を絶やしてはならないという強い意志のもとに団結して、コロナ対策をしっかり行いながら細心の注意のもと、活動を継続してきた経緯があります。その間、2020 年 6 月、続けて 2022 年の 6 月には、ドイツはバッハの地元で開催されるライプツィヒ音楽祭に招待され、現地の指揮者、ソリスト、オーケストラと共に「復活祭オラトリオ」を演奏する予定でしたが、これもコロナ禍のために断念せざるを得なくなりました。しかしながら、音楽祭当局のフェラインに対する熱き思い入れは継続され、再来年（2024 年）の 6 月の出演をと再々度のオファーが届き、曲目は変更されましたが、コラールカンタータ 300 年を記念して、カンタータ第 10 番、第 93 番、第 177 番を演奏できる運びとなりました。

思えば、フェラインでは一昨年のマタイ受難曲演奏会に臨むにあたって、会員と聴衆の皆さんの理解を深め促すために、マタイ受難曲を 4 つに分割し、オルガンとピアノの簡易伴奏により全てのソリストも自前で担い、「マタイ受難曲への旅」と題したレクチャーコンサートを 3 度開いたものでしたが、その 4 回目はコロナ禍で開催できなくなってしまいました。しかし、本チャンはいつ開催できるか見通しは全く立たぬものの、何とか 4 回目を実現させるべく根気強く計画し、それも 3 度の延期を経て、やっと本年 3 月に遂行したところであります。そして、新たなる課題として、コロナ禍の拡大、減少に一喜一憂しながらも、会員のモチベーションを維持するべく活動をどのように切り盛りしたなら良いかを話し合い、まずは「多様なカンタータを経験しよう！」とのコンセプトのもと、カンタータ選曲に着手、練習に取り掛かり始めたところでした。そんな中、世界を代表するオーボエ奏者でバッハ指揮者のヘルムート・ヴィンシャーマン先生が昨年 3 月に天寿を全うされて 100 歳で大往生されましたが、先生に大変お世話になった仙台、岡山の同志たちと共に、先生の追悼演奏会を企画しようという案が持ち上がり、今年の 11 月に東京、仙台、盛岡で実施する計画を立て、現在着々と準備を進めております。

私たちは、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインという名称で活動を続けてまいりましたが、翻って音楽史を俯瞰してみますと、あたかもバッハ以前の音楽はバッハに流れ込み、バッハ以後の音楽はバッハから流れ出ずという様相を呈していますので、古今東西の全ての音楽はバッハに関連づけられると言っても過言ではなく、その意味では、フェラインでは何の曲でも取り上げられて然るべきと心得て、様々な楽曲に取り組んできた経緯があります。その歴史の中には、バッハの 4 大宗教曲（マタイ、ヨハネの両受難曲やロ短調ミサ、クリスマス・オラトリオ）、ハイドンの「天地創造」、メンデルスゾーンの「パウロ」などといったオラトリオの大曲まで含まれ、招聘した世界的指揮者たちからありがたくも名演の誉を頂戴してきたところです。一方で、会員の中には、カンタータ・フェラインと言いながら、バッハのカンタータを一度も演奏したことのない者も少なからずいて、ここは一度原点に返って、音楽の宝石箱であるカンタータにじっくりと取り組もうとなったわけでありました。今私たちが取り上げようとしているカンタータは、再来年の 6 月までの長いスパン（約 1 年 8 ヶ月）の中で次の 8 曲です。

カンタータ第 10 番「私の魂は主を崇めます」ドイツ語によるマニフィカト　BWV10　1724 年
カンタータ第 27 番「私の終わりがどれだけ近いか、誰が分かろうか」　BWV27　1726 年
カンタータ第 64 番「見なさい、どれほどの愛を父は示してきたか」　BWV64　1723 年
カンタータ第 71 番「神はいにしえより私の王」　BWV71　1708 年
カンタータ第 93 番「ただ愛する神の支配に任せる者」　BWV93　1724 年
カンタータ第 103 番「あなた方は泣き喚くだろう」　BWV103　1725 年
カンタータ第 140 番「目覚めよと呼ぶ声が私たちを呼んでいる」　BWV140　1731 年
カンタータ第 177 番「私はあなたに呼びかける、主イエス・キリストよ」　BWV177　1732 年

この中では、カンタータ第71番（ミュールハウゼン時代）を除いて、全てライプツィヒ時代に作られた作品ですが、このライプツィヒ時代、バッハは聖トーマス教会をはじめ市内の五つの教会で歌われる音楽の責任者でもありました。カンタータは、言うなれば鑑賞に供す音楽ではなく、毎週の礼拝で神様を賛美するために作られた、いわば実用音楽でありますから、教会暦（教会の1年の暦）に沿って次々に作曲していかねばならず、しかもそれを合唱団やオーケストラ、そしてソリストたちと練習、稽古をつけていく過程を考えると、それこそ気が遠くなってしまいそうな所業です。それを完璧に成し遂げたバッハ、もうすごいとしか言いようがありません。そんな突貫工事じみた環境の中にあって、駄作が一つもないどころか、対位法的にも韻律的にも修辞学的にも、ありとあらゆる崇高なメッセージが込められているのですから、バッハの才能たるや驚くべきものであることがお分かりになると思います。

ここで参考までに、バッハが作曲しなければならなかった教会暦は、機会としてどれだけあったのかを以下に掲げます。

教会暦 Kirchenjahr

教会暦とは、待降節第1日曜日に始まり、三位一体節後第26/27日曜日に終わる、1年を周期とするキリスト教会固有の暦をいいます。ここでは、ルター正統主義下にあったバッハが、1723～1750年にトーマス・カントールとして教会音楽に携わった当時のライプツィヒにおける教会暦を紹介します。なお、降誕節や顕現節などの祝日は毎年その期日が決まっていますが（固定祝日）、復活節や聖霊降臨節などは年によってその期日が変動します（移動祝日）。後者については後に解説します。

＊ 待降節 Advent 第1～4日曜日：救い主キリストの降誕に先立つ4週間で、教会暦の新しい年次の開始を記念して第1日曜日は音楽を伴って祝われましたが、第2～4日曜日は復活節前の40日間（四旬節）と対応して、ライプツィヒでは悔い改めの期間としてオルガンを除くカンタータ演奏は原則禁じられました。なお、以下の冒頭の括弧内数字は、通算の演奏機会の順次を示しています。

（1）待降節第1日曜日：カンタータ第36番、第61番、第62番

（2）待降節第2日曜日：カンタータ第70a番

（3）待降節第3日曜日：カンタータ第186a番

（4）待降節第4日曜日：カンタータ第132番、第147a番

＊ 降誕節（クリスマス）Weihnachten：キリスト教3大祝祭節の一つで、第1祝日（12月25日）から第3祝日までキリストの降誕が祝われます。

（5）降誕節第1祝日（12月25日）：カンタータ第63番、第91番、第110番、第191番、第197a番、第248^{I}番

（6）降誕節第2祝日（12月26日）ステパノ殉教記念日：カンタータ第40番、第57番、第121番、第248^{II}番

（7）降誕節第3祝日（12月27日）使徒ヨハネ記念日：カンタータ第64番、第133番、第151番、第248^{III}番

＊（8）降誕節後日曜日：カンタータ第28番、第122番、第152番

＊（9）新年 Neujahr キリストの割礼記念日：カンタータ第16番、第41番、第143番、第171番、第190番、第248^{IV}番

＊（10）新年後日曜日（1月6日以前のみ）：カンタータ第58番、第153番、第248^{V}番

＊（11）顕現節 Epiphanias（1月6日）：カンタータ第65番、第123番、第248^{VI}番

＊ 顕現節後 第1～4日曜日

（12）顕現節後 第1日曜日：カンタータ第32番、第124番、第154番

（13）顕現節後 第2日曜日：カンタータ第3番、第13番、第155番

（14）顕現節後 第3日曜日：カンタータ第72番、第73番、第111番、第156番

（15）顕現節後 第4日曜日：カンタータ第14番、第81番

＊（16）復活祭前第9日曜日 Septuagesimae（復活祭前70日）：カンタータ第84番、第92番、第144番

＊（17）復活祭前第8日曜日 Sexagesimae（復活祭前60日）：カンタータ第18番、第126番、第181番

＊（18）復活祭前第7日曜日 Estomihi（復活祭前50日）：カンタータ第22番、第23番、第127番、第159番

＊ 四旬節 Quadragesimae（復活祭前 40 日）：キリストの受難に向けた 40 日間の準備期間です。厳格なる悔い改めの期間として、教会の内外を問わずオルガン演奏を含む歌舞音曲の類いは禁じられ、また結婚式、贅沢な飲食、華美な催しなども慎まれました。

（19）四旬節第 1 日曜日（復活祭前第 6 日曜日）Invocavi

（20）四旬節第 2 日曜日（復活祭前第 5 日曜日）Reminiscere

（22）四旬節第 3 日曜日（復活祭前第 4 日曜日）Oculi：カンタータ第 54 番、第 80a 番

（23）四旬節第 4 日曜日（復活祭前第 3 日曜日）Lätare

（24）四旬節第 5 日曜日（復活祭前第 2 日曜日）Judica

＊ 受難週 Karwoche：復活祭前の 1 週間で、四福音書の受難に関する記事が 4,5 世紀より朗読されるようになりました。

（25）棕櫚の日曜日（四旬節第 6 日曜日（復活祭前日曜日）Palmarum：カンタータ第 182 番

（26）洗足聖木曜日 Gründonnerstag

（27）聖金曜日 Karfreitag：ライプツィヒでは、バッハの前任者のクーナウの時代に、1721 年より毎年聖金曜日に聖トーマス教会でオラトリオ受難曲が演奏されるようになりました。1724 年に聖ニコライ教会で「ヨハネ受難曲」が演奏されて以来、1 年おきに聖トーマス、聖ニコライの両主要教会では受難曲が演奏されています。

＊ 復活祭（イースター）Ostern 第 1～3 祝日：キリストの復活を祝う祝日で、教会暦中もっとも重要な祝日の一つです。復活祭の期日は、春分の日の後、最初に来る満月の日の直後の日曜日（3 月 22 日から 4 月 25 日のいずれかの日曜日）であると、ニケア公会議（325 年）で定められました。

（28）復活祭 Ostertag 第 1 祝日：カンタータ第 4 番、第 31 番、第 249 番

（29）復活祭 Ostertag 第 2 祝日：カンタータ第 6 番、第 66 番

（30）復活祭 Ostertag 第 3 祝日：カンタータ第 134 番、第 145 番、第 158 番

＊（31）復活祭後第 1 日曜日 Quasimodogeniti：カンタータ第 42 番、第 67 番

＊（32）復活祭後第 2 日曜日 Misericordias Domini：カンタータ第 85 番、第 104 番、第 112 番

＊（33）復活祭後第 3 日曜日 Jubilate：カンタータ第 12 番、第 103 番、第 146 番

＊（34）復活祭後第 4 日曜日 Cantate：カンタータ第 108 番、第 186 番

＊（35）復活祭後第 5 日曜日 Rogate：カンタータ第 86 番、第 87 番

＊（36）昇天節 Himmelfahrt：復活節後 40 日目のキリスト昇天の出来事を記念する祝日です。
カンタータ第 11 番、第 37 番、第 43 番、第 128 番

＊（37）復活祭後第 6 日曜日 Exaudi：カンタータ第 44 番、第 183 番

＊ 聖霊降臨節（ペンテコステ）Pfingsten 第 1～3 祝日：復活節後 50 日後の聖霊の降臨を記念する祝日で、復活節とともにもっとも古くから祝われた祝日です。キリスト教の 3 大祝祭節の一つです。

（38）聖霊降臨節 Pfingsten 第 1 祝日：カンタータ第 34 番、第 59 番、第 74 番、第 172 番

（39）聖霊降臨節 Pfingsten 第 2 祝日：カンタータ第 68 番、第 173 番、第 174 番

（40）聖霊降臨節 Pfingsten 第 3 祝日：カンタータ第 175 番、第 184 番

＊ 三位一体節 Trinitatis：教会暦は、待降節より聖霊降臨節までの半年と、三位一体節後の半年に分かれます。教会暦は、三位一体節後第 26 ないし 27 日曜日で閉じられ、再び待降節に回帰するのです。

（41）三位一体節 Trinitatis：カンタータ第 129 番、第 165 番、第 176 番、第 194 番

＊（42）三位一体節後第 1 日曜日：カンタータ第 20 番、第 39 番、第 75 番

＊（43）三位一体節後第 2 日曜日：カンタータ第 2 番、第 76 番

＊（44）三位一体節後第 3 日曜日：カンタータ第 21 番、第 135 番

＊（45）三位一体節後第 4 日曜日：カンタータ第 24 番、第 177 番、第 185 番

＊（46）三位一体節後第 5 日曜日：カンタータ第 88 番、第 93 番

＊（47）三位一体節後第 6 日曜日：カンタータ第 9 番、第 170 番

＊（48）三位一体節後第 7 日曜日：カンタータ第 54 番、第 107 番、第 186 番、第 187 番

＊（49）三位一体節後第 8 日曜日：カンタータ第 45 番、第 136 番、第 178 番
＊（50）三位一体節後第 9 日曜日：カンタータ第 94 番、第 105 番、第 168 番
＊（51）三位一体節後第 10 日曜日：カンタータ第 46 番、第 101 番、第 102 番
＊（52）三位一体節後第 11 日曜日：カンタータ第 113 番、第 179 番、第 199 番
＊（53）三位一体節後第 12 日曜日：カンタータ第 35 番、第 69a 番、第 137 番
＊（54）三位一体節後第 13 日曜日：カンタータ第 33 番、第 77 番、第 164 番
＊（55）三位一体節後第 14 日曜日：カンタータ第 17 番、第 25 番、第 78 番
＊（56）三位一体節後第 15 日曜日：カンタータ第 51 番、第 99 番、第 138 番
＊（57）三位一体節後第 16 日曜日：カンタータ第 8 番、第 27 番、第 95 番、第 161 番
＊（58）三位一体節後第 17 日曜日：カンタータ第 47 番、第 114 番、第 148 番
＊（59）三位一体節後第 18 日曜日：カンタータ第 96 番、第 169 番
＊（60）三位一体節後第 19 日曜日：カンタータ第 5 番、第 48 番、第 56 番
＊（61）三位一体節後第 20 日曜日：カンタータ第 49 番、第 162 番、第 180 番
＊（62）三位一体節後第 21 日曜日：カンタータ第 38 番、第 98 番、第 109 番、第 188 番
＊（63）三位一体節後第 22 日曜日：カンタータ第 55 番、第 89 番、第 115 番
＊（64）三位一体節後第 23 日曜日：カンタータ第 52 番、第 139 番、第 163 番
＊（65）三位一体節後第 24 日曜日：カンタータ第 26 番、第 60 番
＊（66）三位一体節後第 25 日曜日：カンタータ第 90 番、第 116 番
＊（67）三位一体節後第 26 日曜日：カンタータ第 70 番
＊（68）三位一体節後第 27 日曜日：カンタータ第 140 番
＊ マリアの祝日：宗教改革以前の多くのマリアの祝日のうち、以下の 3 祝日がルター派に受け継がれ祝われました。
（69）潔めの祝日 Mariae Reinigung（2 月 2 日）：幼児イエスのエルサレム神殿詣でとシメオンの賛歌の記事に基づいて、主にある安らかな死が主題となっています。カンタータ第 82 番、第 83 番、第 125 番、第 157 番、第 158 番、第 61 番、第 200 番
（70）受胎告知の祝日 Mariae Verkündigung（3 月 25 日）：天子ガブリエルが処女マリアにイエスの誕生を予告する記事に基づいています。カンタータ第 1 番、第 182 番
（71）訪問の祝日 Mariae Heimsuchung（7 月 2 日）：マリアが、洗礼者ヨハネをみごもったエリーザベトを訪れ、マリアの賛歌 Magnificat を語る記事に基づいています。カンタータ第 10 番、第 147 番
＊ 使徒の記念日：バッハ時代のライプツィヒでは、キリストの使徒の記念日も祝われていました。
（72）使徒トーマス（12 月 22 日）
（73）使徒パウロの回心（1 月 25 日）
（74）使徒マティア（2 月 24 日）
（75）使徒フィリポと使徒ヤコブ（5 月 1 日）
（76）使徒ペテロと使徒パウロ（6 月 29 日）
（77）ゼベダイの子使徒ヤコブ（7 月 25 日）
（78）使徒バルトロマイ（8 月 24 日）
（79）使徒・福音史家マタイ（9 月 21 日）
（80）使徒シモンと使徒ユダ（10 月 28 日）
＊（81）洗礼者ヨハネの祝日 Johannistag（6 月 24 日）：洗礼者ヨハネの誕生とその父ザカリアの賛歌です。
カンタータ第 7 番、第 30 番、第 167 番
＊（82）市参事会員交代式 Ratswechsel：ライプツィヒでは毎年、使徒バルトロマイの記念日（8 月 24 日）の次の月曜日に市参事会員交代の祝典的礼拝が聖ニコライ教会でおこなわれました。
カンタータ第 29 番、第 69 番、第 71 番、第 119 番、第 120 番、第 137 番、第 193 番

＊（83）大天使ミカエルの祝日 Michaelistag（9 月 29 日）：大天使ミカエルと悪魔との戦い、そして天使の勝利を記念する日です。
カンタータ第 19 番、第 50 番、第 130 番、第 149 番
＊（84）宗教改革記念日 Reformationsfest（10 月 31 日）：1517 年 10 月 31 日、M.ルターによる 95 箇条の提題の掲示に始まる宗教改革を記念する日です。ザクセン選帝侯国では、1667 年に宗教改革 150 周年が祝われた後、この祝日が教会暦に定着しました。
カンタータ第 76 番、第 79 番、第 80 番、第 192 番
＊（85）結婚式 Trauung：カンタータ第 34a 番、第 120a 番、第 195 番、第 196 番、第 197 番
＊（86）教会、オルガン献堂式 Kirch- und Orgelweihe：カンタータ第 194 番
＊（87）葬儀 Trauerfeier：カンタータ第 106 番、第 118 番、第 157 番、第 198 番、第 244a 番
＊（88）その他教会行事諸々 Andre kirchliche Gelegenheiten：
カンタータ第 97 番、第 100 番、第 117 番、第 120b 番、第 131 番、第 150 番、第 190a 番、第 192 番

このように教会行事で年間、バッハがカンタータを提供しなければならなかった機会は信じられないほどの回数であり、これに世俗ものを加えますと優に 100 回は軽く越えたと思われますから、バッハが如何に超人であったかが解ろうというものです。簡単に整理しますと、バッハがライプツィヒのカントルをしていた当時の教会では毎年 70 曲を越える教会カンタータ、聖金曜日のための受難曲、マニフィカト等を必要としていたということです。尋常でないですね。

楽曲覚え書き、解説に代えて Musik-Memorandum, statt Kommentar

◉ カンタータ第 71 番「神は我が王」

初演日：1708 年 2 月 4 日
用途：市参事会員就任式
歌詞：聖書の抜粋、若干の自由詩
コラール：ヨハン・ヘルマン「おお神よ、汝公正なる神よ」（1630）
編成：独唱 4 部、合唱 4 部、トランペット 3 とティンパニ、ヴァイオリン 3 部（ヴィオラを含む）とヴィオローネ、オーボエ 2 とファゴット、プロックフレーテ 2 とチェロ、通奏低音とオブリガートオルガン

ミュールハウゼンの市参事会は、毎年 2 月 4 日にメンバーの 3 分の 1 が交代し、その就任式のためにカンタータが作曲、演奏されるならわしでした。1708 年の就任式にはバッハがその作曲を依頼され、そこで出来上がったのがこのカンタータ第 71 番です。市の栄誉のためでしょうか、この時期の作品としては異例なほど大編成の管弦楽を動員しており、その音楽はアルカイック（archaïque：古風で素朴なさま）なきらいがあるとはいえ、華麗で壮大、かつ若々しい覇気に富んでいます。聖マリア教会で演奏されたこのカンタータは大変好評であったらしく、バッハのカンタータとしては、生前に印刷された唯一の作品となりました。

表題には「慶祝の教会モテット」とあり、6 つのグループからなる編成を適宜用いて、ブクステフーデのカンタータを彷彿させるような華々しいコンチェルタートな効果を生み出しています。短い部分を並列する形式を取り、特に対称を採用してはいませんが、各楽曲内部では同一動機の反復によって統一を図る手法が用いられています。若干の自由詩を含むテキストの編作者は、聖マリア教会のアイルマール牧師かバッハ自身によるものと見られています。

第 1 曲　合唱

詩篇第 74 篇 12 節をテキストとし、全体は以下の 5 つの部分から成り立っています。

第1部　アニモーソ　ハ長調
第2部　イ短調
第3部　ハ長調
第4部　ウン・ポコ・アレグロ
第5部　ハ長調

このうち第1、3、5部が冒頭動機による総奏であるのに対して、第2、4部は弦・オルガンと小合唱によって新しい楽想を導入しています。従って一種のロンド形式をここに認めることができますね。初期のカンタータ（第4番、第12番、第21番、第71番、第106番、第150番、第196番など）の中でこの曲だけが器楽シンフォニアを持たず、曲は神の栄光を示す3本のトランペットのファンファーレで開始され、合唱は「神（Gott）」を3回繰り返した後、3小節目で主動機を提示します。この「3」の象徴は以後もさまざまな場面で用いられます。第2部はソプラノに長い音符を置く、コラール・ファンタジーを思わせる部分。第4部ではポリフォニックな展開が行われ、やがて主部が自由に再現して閉じられますが、結尾には独特のエコーが姿を見せます。このエコーの狙いは、聖マリア教会の音響効果と結びつける考え方もあるようです。

第2曲　コラール付きテノール・アリア　アンダンテ　ホ短調

この楽章は、テノール独唱とコラールを歌うソプラノ、通奏低音及びオルガンのオブリガート声部の4重奏の形を取っています。テキストは80歳になって疲れ切り、エルサレム行きを拒んで安らかな死を待つ老僕、バルジライの言葉（サムエル記下第19章36,38節）から取られ、役目から解放された老参事会員たちを労うものとなっています。オスティナート風に歩む低音の上でテノールがアリオーソ的に歌っていきますが、言葉の情感がよく生かされ、中でも「なぜ（warum）」の問い掛けでオルガンとの間に交わされる対話は、実に美しい効果があります。ソプラノのコラール（ヘルマンの「おお神よ、汝公正なる神よ」第6節）がこれに答え、人の定めを告げますが、このコラールも言葉の情感に対応して多くの装飾が付されています。やがてオルガンの3連符によるフィギュレーション（音型）が目立ってきて、後奏に余韻を残しつつ終わります。

第3曲　小合唱　イ長調

老年の諦観はこの合唱によって吹き払われます。聖書に「老人は夢を見るであろう」とあるように、神がいます限り老人は若者と変わることがないのです。申命記（第33章25節）と創世記（第21章22節）によるこの宣告は、フーガで入ってくるためそれが神が与えた掟であることが明らかにされるのです。形式は、順列フーガ（Permutationsfuge）と言われるこの時期特有のもので、自由な発展を持たないフーガであり、事実上4声カノンと言ってよいでしょう。

第4曲　バス・アリオーソ　レント　ヘ長調

この曲に至って視野は宇宙に広がります。詩篇第74篇16,17節によるテキストで扱われていますのは、森羅万象に対する神の統治です。後にバッハがほとんどのアリアで用いるようになるダ・カーポ形式がここで初めて登場します。しかし中間部は全く別の楽想によっており、動機の関連による一元的統一はまだ試みられてはいません。主部はレントのゆったりとした音楽で、宇宙の悠久の運動を模写するかのよう、「昼（Tag）」が高い音、「夜（Nacht）」が低い音で寓意されているのは明白です。中間部は一転して動きの速い音楽となりますが、低音部のリズムは太陽と星の休まぬ運行を象徴しているかのようです。

第5曲　アルト・アリア

第1部　ヴィヴァーチェ　ハ長調

第2部　アンダンテ

第3部　ヴィヴァーチェ　ハ長調

自由詩の基づく勇壮なアリアが、場面を宇宙から現実に転換させます。このテキストの内容は、いかにも硝煙の匂いを嗅ぐような生々しさがあるため、三十年戦争以来戦乱の絶え間がなかったドイツにおいて、平和への祈願が切実なものであったに違いないことを予見させるものがあります。音楽は自由な枠形式により、3 本のトランペットとティンパニによるファンファーレが、神の威光を輝かせています。世俗の権威は、神によって初めて力を持ちうるのだと言っているようです。

第6曲　小合唱　ラルゲット　ハ短調

チェロのオブリガート音型が耳を奪うこの楽章は、ロマンティックとさえ言いたいような情熱のゆらめきによって、このカンタータの中でも異彩を放っています。シュピッタはこの曲を「抑制された苦悩の恐ろしい表現」、ミュラーはチェロの音型を「ちょろちょ

ろと燃え上がり、貪欲になめ尽くす地獄の炎」と解しましたが、私には正直わかりません。多分、迫り来る戦争の不安がこの祈り（詩篇第 74 篇 19 節による）を緊迫したものとしているのでありましょうが・・・。プロックフレーテに出る鳩の鳴き声を思わせる旋律を合唱が引き取って歌い、ゼクエンツを繰り返して盛り上がります。曲尾のユニゾンによる同音反復は確かに不気味ではありますが。

第７曲　合唱

第１部　アリオーソ　ハ長調

第２部　アレグロ　ハ長調 → イ短調

第３部　アンダンテ　ニ長調 → ハ長調

第４部　ヴィヴァーチェ　ハ長調

第５部　アレグロ　ハ長調

第６部　イ短調 → ハ長調

終曲は、多彩な編成による協奏効果を極限まで生かした力強く華麗な楽曲です。自由詩によって、新参事会の統治の成功と皇帝ヨーゼフ 2 世の多幸を祈りますが、神の力の顕現がトランペットの響きに象徴されていて、万事が栄えゆくことを暗示しています。上記の 6 部分からなり適度に変化と統一を持たせながら声部を増して、大きな高潮を築くように構成されています。第 5 部は先にも出た順列フーガによりもっとも長大です。この第 5 部が祝典的なコーダとなり、またしても消えいるようなエコーで全曲は閉じます。

◉ カンタータ第 64 番「見よ、父の我らに賜いし愛の大なるかを」

初演日：1723 年 12 月 27 日

用途：降誕節第 3 日

歌詞：書簡章句（ヘブル人への手紙第 1 章 1～14 節）

福音書章句（ヨハネの手紙第 1 第 3 章 1 節）

コラール：マルティン・ルター「賛美を受けよ、汝イエス・キリストよ」（1524）、

G.M.プフェッファーコルン「我、いかで世のことを問わん」（1667）、ヨハン・フランク「イエスよ、我が喜び」（1650）

編成：独唱 3 部、合唱 4 部、ツィンクとトロンボーン 3、オーボエ・ダモーレ、ヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、通奏低音

クリスマス第 3 日の礼拝は、もはや「神の子の誕生」という事柄の直接的喜びに支配されてはいません。書簡章句と福音書章句が示すように、この日の礼拝のテーマとなるのは、御子に関するいわば哲学的な考察です。しかし、御子が「神の栄光の輝き」であり、「神の本質の真の姿」と見なされるのに対して、我々人間は本当に儚く、空しい生を生きるほか術がないのではないか。「諸々の天も御手のわざである。これらのものは滅びてしまうが、あなたはいつまでもいます御方である。全てのものは衣のように古び、それらをあなたは外套のように巻かれる」（書簡章句）。しかし、そんな我々にも「神の子」と呼ばれる可能性が与えられています。ヨハネの第一の手紙第 3 章が示すように、神の大いなる愛がそれを可能にしたのです。その愛を象徴する出来事が、「言葉の肉体化」、つまり人の子の姿としての顕現に他ならないのです。こうした考え方に基づき、このカンタータは神の愛を讃え、現世の空しさを強調するのです。ここでは死を思い来世を待望することが、降誕の意義に対する無二の考察となるのです。クリスマス第 3 日は同時に聖ヨハネの祝日にもあたっています。スメントはこの点を重視して「愛の使徒ヨハネへの想いがこのカンタータ全体を支配している」と述べています。台本には 3 つのコラールが採用されています。よってこのカンタータのテキストを作成したのは、カンタータ第 40 番でも同様の措置を施したピカンダーではないかとシャイデは推測していますが、それについての確証はありません。いずれにせよこのカンタータは、バッハが人生を見る目の深さ、鋭さを示す素晴らしい作品だと思います。このカンタータの中に、バッハの最高の霊感の一つが輝いていると言っても過言ではないでしょう。

第１曲　合唱　ホ短調

4 声の合唱フーガです。一部自由な動きを持つ通奏低音を除いて、器楽は声楽パートと完全に重複しています。古風なモテットを思わせる佇まいの中に、「見よ」の命令がくっきりと浮かび上がってくるではありませんか。

第２曲　コラール　ト長調

珍しいことに、ミクソリディア調の素朴なコラールが、冒頭合唱のメッセージに直接応答します。クリスマスとのつながりを直接感じさせる部分であると言ってよいでしょう。もしこの曲がなければ、このカンタータがクリスマス用だと思われる人はまずいないかもしれませんね。

第３曲　アルト・レチタティーヴォ　ハ長調

この世の宝への訣別を告げるレチタティーヴォです。世の去りゆく様を象徴する上行音型が、低音部に盛んに姿を見せます。「去り行け、世よ、己がものを取りて去りゆくがよい！」　何と潔い訣別の意志でしょう。

第４曲　コラール　ニ長調

前曲からアッタッカで流れ込むコラールの冒頭旋律は、アルトの語りの末尾で既に準備されていたものです。曲はキッパリした潔い趣を持ち、通奏低音の８分音符の連なりが、これに引き締まった精彩を与えています。我は一人汝をのみ生きがいと思い定めている、しかればなぜに、この世の宝のことにこだわるのか、と決然と語るコラールです。

第５曲　ソプラノ・アリア　ロ短調

このアリアの素晴らしさは何に例えられましょうか。人の世の空しさ、儚さをこれほどまでに美しく結晶させた音楽は中々あるものではないと思います。ガヴォットのリズムが全く様式化され、束の間に消え去る「煙」を模写するヴァイオリンが、虚空を上へ下へと駆け巡ります。中間部では、イエスの賜物の永遠と魂の愛が言及されますが、しばし、ここで通奏低音が休止するのは、こうした内容を扱う際にバッハがしばしば見せる技法です。ちなみに、「世と（Was die Welt）」が６回繰り返されることは、神がこの世を「6 日間で」創造したことに関連しているのです。

第６曲　バス・レチタティーヴォ　ト長調

天国の確信を述べるこのレチタティーヴォは、最後には降誕の意義の認識に達します。「神」や「イエス」の語に高い音があてがわれていただけに、「人間」の語が大きな下降の後、トリル音型を伴って歌われるのが印象的ですね。

第７曲　アルト・アリア　ト長調

ソプラノの第５曲アリアと鮮やかな対照をなす、甘美で幸福感に満ちたアリアです。通奏低音の確信を込めた歩みの上で、オーボエ・ダモーレが流動的なリズムを持つ柔軟な旋律を奏するのが印象的です。ヘミオーレの多用が特徴です。

第８曲　コラール

終曲は、この世へのしめやかな別れの歌です。これは、バッハが４ヶ月前に作曲したモテット「イエスよ、我が喜び」の新たな編曲ではありますが、かのモテットを支配していたドイツ的な宗教感情の高まりは、このカンタータにおいても十二分に感じ取ることができると思います。

◉ モテット第３番「イエスは我が喜び」より、第 11 曲コラール「去れ、汝悲しみの霊よ」（アンコール）

このモテットは、1723 年 7 月 18 日にライプツィッヒ聖ニコライ教会で行われた、 中央郵便局長未亡人ヨハンナ・マリーア・ケーゼの追悼礼拝の際に歌われるために作曲されたと言われています。その終曲の歌詞は、以下の通りです。

「消え去れ、悲しみの思いよ、私の喜びの与え主、イエスが入って来られる。神を愛する人々にとって、心を曇らせる辛い出来事もかげりのない喜びとなるに違いない。ここですでに嘲りや侮辱に耐えるとしても、その苦しみの中でさえ、イエスよ、あなたが私の喜びでいてくださる。」

◉ カンタータ第 147 番「心と口と行いと生活をもって」より、第 10 曲コラール「イエスはいつも我が喜びなり」（アンコール）

文責：佐々木正利

【以下，当会からのお知らせです】

◎ライプツィヒ市(ドイツ)及びバッハ音楽祭についてのご紹介

ライプツィヒ・バッハ音楽祭(Bachfest)について（公式ホームページより）

「長い伝統を誇る音楽祭」

1904 年以来、ライプツィヒではヨハン・セバスティアン・バッハを称える音楽祭が定期的に開催されています。当初はノイエ・バッハ・ゲゼルシャフト（新バッハ協会）のメンバーによって始められましたが、1908 年、聖トーマス広場に建てられた新しいバッハ像の除幕式を記念して「第１回ライプツィヒ・バッハ音楽祭」が開催されてからは、ライプツィヒ市が徐々に運営を行うようになりました。後に聖トーマス広場のカントールとなったカール・シュトラウベ（1873-1950）は、最初の数年間を牽引する存在であり、最初の時の人でありました。

コロナ禍によりまぼろしとなったライプツィヒ・バッハ音楽祭(Bachfest)のプログラム・ブックレット

いずれも出演予定で，当会の名前(Bach-Kantaten-Verein Morioka (Japan))が掲載されています。

２０２０年…３８ページと６３ページ
https://www.bachfestleipzig.de/sites/default/files/files/Bachfest_Leipzig_2020_Programmbuch.pdf

２０２２年…７１ページ
https://www.bachfestleipzig.de/sites/default/files/files/Bachfest_2022_Programmbuch_Internet.pdf

ライプツィヒ市と音楽について（市公式ホームページより）

ライプツィヒは音楽の街としての素晴らしい伝統と、活気ある現在、そして国際的な名声を誇っています。ヨハン・セバスティアン・バッハ、フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ、エドヴァルド・グリーグ、グスタフ・マーラー、クララ＆ロベルト・シューマンなどの重要な音楽家がここで活動し、ハンス・アイスラーやリヒャルト・ワーグナーもここで生まれました。この街には、これらの重要な音楽家の生涯と作品に関する本格的な遺跡が数多くあります。

ライプツィヒは、ゲヴァントハウス管弦楽団や聖トーマス少年合唱団など、国際的に有名なアンサンブルの本拠地であり、中央ドイツ放送の所在地でもあります。毎年、国際バッハフェスティバルと 2 年に 1 度の国際バッハコンクールを開催しています。フェリックス・メンデルスゾーン・バルトルディ音楽演劇アカデミーでは、世界各国から集まった音楽家が学んでいます。

ライプツィヒの現在の音楽シーンは、クラシック、ニューミュージック、ロック、ポップス、ジャズ、フォークなど、それに応じて多岐に渡っています。

◎会員募集

本日お聴きになられた皆様，こんどは一緒に歌ってみませんか？

毎週火曜日，夜６時３０分から９時まで，舘坂橋教会で練習しています。

１ヶ月に１度，日曜日に強化練習を開催もしています。

カンタータについて，指揮者である佐々木正利氏のレクチャーつき合唱指導を通して学んでいます。

会費は，近郊一般会員は毎月４０００円，近郊学生・生徒会員は２０００円です。

「遠隔地会員」の会費設定もあります（遠隔Ａ一般は毎月２０００円，同学生・生徒１０００円。遠隔Ｂ会員は年額２０００円）。

「フェライン」とは「仲間」という意味のドイツ語です。あなたも「フェライン」になりませんか？

連絡先は　y.jsb.motegi@gmail.com　090-8928-7998　（茂木）　です。

◎今後の予定

「ライプツィヒへの旅～カンタータ連続演奏会～」の第２回は２０２３年の２月頃にカンタータ第９３番，１０３番，第３回は７月頃にカンタータ第２７番，１４０番を予定しています。

また１１月には，バッハ演奏の大家であり盛岡に何度も来て共演してくださった世界的バッハ演奏家ヘルムート・ヴィンシャーマン先生の「追悼演奏会」を東京(３日)，仙台(４日)，盛岡(５日)と計画しています。これはオーケストラ付きで，カンタータ第２７番，９３番，１４０番などを演奏する予定です。

そして２０２４年６月のライプツィヒ・バッハ音楽祭(Bachfest)２０２４に招聘されています！

コンサート：2024 年 6 月 8 日（土）12:00 よりパウリヌム-アウラ、ライプツィヒ大学教会にて。
ライプツィヒ大学教会聖歌隊席ギャラリーでの演奏会です。

プログラム（アンダーラインが当会の演奏曲目です。）：

ヨハン・セバスティアン・バッハ（1685-1750）

・私の魂は主を崇める BWV 648（4'）…オルガンのためのコラール曲

・わが魂は主を崇める BWV 10 (20')…マリア訪問の祝日のためのカンタータ
　ソプラノ、アルト、テノール、バス、4 部合唱、トランペット、オーボエ 2 本、弦楽器と通奏低音のための

・主イエス・キリストよ、私はあなたに呼びかけます BWV 639（3'）…オルガンのためのコラール曲

・主イエス・キリストよ、私はあなたに呼びかける BWV 177（22'）…三位一体後第 4 主日のためのカンタータ
　ソプラノ、アルト、テノール、4 部合唱、オーボエ 2 本（オーボエ・ダ・カッチャ 1 本も可）、弦楽器と通奏低音（ファゴット・オブリガート）のための

・親愛なる神にのみ支配を許す者 BWV 691a (2')…オルガンのためのコラール曲

・親愛なる神にのみ支配を許す者 BWV 93 (20')…三位一体後第 5 主日のためのカンタータ
　ソプラノ、アルト、テノール、バス、4 部合唱、オーボエ 2 本、弦楽器、通奏低音のための

演奏者：バッハ音楽祭よりのソリスト、オルガニストと、盛岡バッハ・カンタータ・フェライン（合唱）、
そして D.テイム指揮パウリナー・バロックアンサンブル（オケ）

またのご来場をお待ち申し上げます。